日刊建設通信新聞（2014 年 11 月 4 日付 3 面掲載）

【オリコンサル柏市と実証実験　公用車事故を半減　多機能レコーダー搭載】

オリコンサル柏市と実証実験

公用車事故を半減

多機能レコーダー搭載

オリエンタルコンサルタンツは、千葉県柏市と共同で、交通安全に関する実証実験プロジェクトを実施する。同市の公用車200台にドライブレコーダーを取り付けるとともに、各種付加サービスを実施する。2015年4月からは、走行データを基に危険個所の抽出・対策立案、ヒヤリハットマップを作成する。

公用車と地域の交通事故削減を目的に実施する。通常のドライブレコーダーは、急減速時などの発生時の映像だけを記録するものが多いが、今回導入するドライブレコーダーは、位置、速度、加速度、時間なども収集し、事故削減のための運行診断レポートや安全講習会の開催により、ドライバーの意識改善、管理者も含めた教育を行う。また、収集したデータを解析することで、より効果的な道路施設の改良提案を行う。

公用車200台にドライブレコーダーを設置

実験は2段階で行う。第1段階はドライバーに対する安全教育として、3つのレベルで施策を実施し、ドライブレコーダーを導入した公用車の事故の半減を目指す。

レベル1はドライブレコーダーを車に設置し、運転リスク情報の「見える化」を行う。レベル2は運転データを分析した運転診断レポートを作成する。レベル3は運転診断レポートや蓄積された動画を基に、ドライバーや管理者向けの安全運転講習会を開き、安全運転の意識を向上させる。

第2段階はドライブレコーダーの映像などからヒヤリハットの要因を分析し、安全対策を検討する。市民の安全意識の改善を目的としてヒヤリハットマップを作成する。プロジェクトの期間は16年3月末まで。

ドライブレコーダーは同社が無償で賃与する。普通車のほか、トラック、消防車、マイクロバスなどにも設置する。同社の野崎秀則社長は、プロジェクトを通じて「柏市全体の運動につながれば幸いだ」と実験の成功を期待している。

日刊建設産業新聞（2014 年 11 月 4 日付 2 面掲載）

【柏市・オリコンサル　交通安全プロジェクト開始　事故削減へ実証実験
運転リスク情報見える化など】

交通安全プロジェクト開始

事故削減へ実証実験

運転リスク情報見える化など

柏市・オリコンサル

オリエンタルコンサルタンツは、柏市と共同で、交通安全に関する実証実験プロジェクト「柏市交通安全プロジェクト」を開始した。ドライブレコーダーを車に設置し、運転リスク情報の見える化などを行うことにより、柏市の公用車の事故削減、柏市域の交通事故削減を目的として、「ドライバーに対する安全教育」と「インフラ施設に対する改良提案」を行う。期間は11月から16年3月までで、11月から順次、ドライブレコーダーの取付と各種付加サービスを実施し、15年4月から走行データを基に危険箇所の抽出と対策立案、ヒヤリハットマップの作成を行う。実験状況や結果は、広報誌やホームページ等でも公開する。

交通事故の発生要因としては、主に「ドライバー（人）」「インフラ施設（道路環境）」「車」に大別されることから、ドライバーに働きかける安全運転分析支援サービス「車録（シャーロック）」によるドライバーに対する安全教育、「インフラ施設」に働きかけるのは、同社の地域の交通事故削減支援サービス「Drワトソン」によるインフラ施設の改良提案。

1件の大きな事故の裏には、29件の軽微な事故、300件のヒヤリハットがあるといわれており（ハインリッヒの法則）、重大事故防止のためにはヒヤリハットの段階で対処していくことが必要となり、「車録」と「Drワトソン」でヒヤリハットを削減し、軽微な事故、重大な事故を抑制する。

実証実験は2つのフェーズで行う。「車録（フェーズ1）」では、ドライバーに対する安全教育として3つのレベルで施策を実施し、ドライブレコーダーを導入した公用車の事故の削減を目指す。レベル1では、ドライブレコーダーを車に設置し、運転リスク情報の見える化を行う。レベル2で運転データを分析した運転診断レポートを作成する。レベル3では、運転診断レポートや蓄積された動画を基にしてドライバーや管理者向けの安全運転講習会を開催する。

「Drワトソン」（フェーズ2）では、ドライブレコーダーの映像からヒヤリハット要因を分析して安全対策を検討し、より効果的な道路施設に対する改良提案を行うことが可能になるとともに、急減速が多い箇所を明示したヒヤリハットマップを作成し、地域住民に情報発信することによって、住民に危険な箇所を伝える。

今回の実証実験により、地方公共団体が民間企業のノウハウを取り入れ、地域の交通安全に取り組むことによって、地域住民の安全意識の向上につながることが期待されている。